

玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（素案）地域説明会
（東兎中学校区） 会議録（概要）

■日 時 令和6年10月9日（水）19:00～21:30

■場 所 東兎公民館

■出席者 柴田市長、多田教育長、小崎次長、琵琶教育総務課長、的場学校教育課長、清山教育総務課参事

■参加者 11名（保護者5名、地域6名）

1 開会

市長あいさつ、教育長あいさつ

2 説明

「玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（素案）」の内容のうち、東兎中学校区に該当する部分を資料に沿って説明。

3 意見交換

参加者1：山田東兎中学校区の再編内容で小学校ですが、徒歩通学で銚立の地域は中間峠を通るのがすごく怖いと思っています。

適正の人数の中で教育するのが一番という感じでは受けているのですが、徒歩通学、バスの子もそうですが、安全面の配慮はどのようにされるのか。あと、バス通学なのかと思っていたのですが徒歩通学で中間峠を通らないといけないんだなあと、他のルートもあるかもしれないんですけど、対策をどのようにされるのか知りたいです。

事務局：先ほど言われた中間峠のところ、確かに1メートルくらいしか幅のないところを自転車で通ったりされていますし、実際拡幅できるのかとなったときに、現実問題かなり難しいところはあると思います。

おおむね3キロというところがありますが、先ほど言われた安全面の確保ができるのか、確かに坂道があったりするので、そういったところについては考えながらどういう形をとるかなと、本当に徒歩で大丈夫かというところを含めて、今後準備委員会の中で検討させていただこうかと思っていますので、今日いただいたご意見は持ち帰らせてもらって、検討したいと思います。

参加者1：あの道、かなり危ないんです。中学生が、新一年生があそこを通るのはかなり怖いと思うので、よく事故車がいるんですけど、そういう話がありながら、バスなのかと思っていたのだけど、教育もそうですけど安全を、道を作るくらい、中間峠かどうかはわかりませんが、お金をかけてでも安全を第一に考えてもらわないと、安全を置き去りにされると怖いんです。

事務局：貴重なご意見として、真剣に考えさせていただきます。全体の他の地区も回らせてもらって、まず大きな基準として、これまで4キロというところを3キロにしていますので、個別の状況は我々もわかっておりますので、しっかりと考えさせてもらおうと思います。

参加者2：地区外ですけど、先ほどの件で追加で話をしていただきたいのですが、大人でも4キロどのくらいかかると思われますか。3キロでもいいです。2キロがわかりやすいかもしれませんね。

事務局：だいたい1キロ15分で考えております。

参加者2：大人でも10分以上かかるんですね。だから3キロでも問題はありますよ。だから、山田地区と銚立

地区はバスを巡回させる形でやらないと危ないですよ、本当。

事務局：そのあたりですね、地域の実情、狭い道や広い道だったり、というものもあると思います。安全安心というのが一番大事だと思っているので、そこはしっかり考えさせてもらおうと思っています。

参加者2：さっき言っていたのは大人の足でその時間ということなので、小学生だけで行ったり帰ったりするというのは、無理ですよ。坂もあるし。

参加者1：雨の日とかは怖いですよ。

参加者2：ここは本当かなり気をつけないと。

事務局：スクールバスの安心安全のところは前回の八浜のところでも相当出ております。3キロにしたところに関しては、国の方では4キロというのがあるんですが、それはあまりにも遠すぎる。検討委員会のほうでは1キロ2キロという話もありまして、我々もそれが一番いいなとは思ったんですが、それを考えるときに財政面とかも考える中で、3キロだと想定しているのが500人くらい、バスが16台くらいになります。これが2キロになると30台くらいになるんですが、安心安全を確保するために考えながら、検討させていただきたいと思っています。

参加者1：実際平地ではないので、中学生の子どもたちが1メートルの幅のところを行くわけですよ。それを小学生が歩いて行くのは無理ですよ。子どもたちと一緒に歩いてみられたらわかると思います。

事務局：ご意見ありがとうございます。

参加者3：元教員です。今の話についての質問です。3キロに16台バスがいる。2キロに30台バスがいる。1台につきバスはいくらかかるんですかね。

事務局：今ちょうど銚立のバス2台を運行するのに1台あたり年間1千万円かかると考えております。

参加者3：10年だと1億、16台だと16億円。2キロ30台だと30億円。それだけの危険をおかして、3キロ無理だ2キロにしたい、でもお金がたくさんかかるんだと。そこまでリスクをおかすよりは、統廃合、子どもたちのためと言えば仕方ないのかなと思うのですが、ここまで大きな統廃合でなくて、もう少し規模の小さい統廃合、いわゆる適正規模化計画でしたよね、A案～E案。あれのB案程度の、近隣の統廃合程度にしておいて、人口を増やす努力をして、そのまま行くのが一番いいのかなと。その間にバスの使用台数が減ったり、あるいは児童数が減るのであれば、30台という見込みがもう少し減ると思うので、今回の規模については私は大きすぎる、しかも突発過ぎると思います。B案くらいがちょうどいいのではと思います。

もう一つ質問です、15ページ。計画策定までの流れ・予定です。11月までに説明会を8回する。12月に修正案を公表する。この間が近すぎませんか。検討して一月のあいだに、市民との合意形成がこの短期間にできるのでしょうか。質問です。

事務局：ここに至るまでは3年半、時間をかけております。先ほど言われたB案ですが、これは計画の草案というものを発表させていただいています。どうやって集約するかという話で、AとかBとかいうのはすごく小さなもので近隣で、E案になるにつれて集約が大きなものになってきたかと思います。そういったことも含め検討委員会の中で1年半かけていろいろ議論いただいております。

いろんな賛否があったんですが、やはり子どもたちの成長においては、小学校だとクラス替えが出来る規模がいいのではないかと、それから中学校においては1学年3学級で専門の先生が配置できる規模がいいのではないかとといったような、最終的にまとめていただいた中で、規模だけでは無くても配置も大事だということも考えていった中で今の形に結果的になって、D案とE案の間くらいになったと考えています。

計画の素案が6月にできまして、それと同時に保護者中心に情報提供させていただいています。10月から11月にかけて地域説明会をさせていただいておりますが、12月までの間、確かに期間も短いかと思いますが、

随時、ご意見などを電話でもメールでももらっていますが、今までいただいた様々な意見をまとめたQ & Aとして見てもらえるようにしています。また問い合わせがあったらしていただけるようにしています。実際たくさん問い合わせいただいて、随時受けるようにしており、いただいたご意見を踏まえて、12月に修正案を出させていただきたい。もっと時間をかけてやっていきたいのは正直ありますけれど、複式学級が目の前にせまってきているところがあります。それはぜひ解消したいというなかで、準備委員会を立ち上げて学校名など決めていくには2～3年かかるだろうということもあります。その中でまだまだ決めないといけないところとか、地域の方々であったりとか、保護者の方々ともっと話をしていけないといけないと思っており、それを考えていくと、こういった時期にこのスピード感でスケジュールを出させてもらっているというのが現状です。

参加者3：ありがとうございます。合意形成というのは、質問した、Q & Aで返ってきた、そうではなくて、こうやって集まって、集団の中での話じゃないですけど、多様な意見を聞きながら、そうかと納得していくのが合意形成だと思うので、この短期間で合意形成をはかろうとしているのが、いわゆる教師主導型、市役所主導型の古い教育ではないかなと気がします。合意形成をしっかりとるように、ここにしっかり時間をかけてみなさんが納得すれば、準備委員会もはやく進むと思いますよ。わかまりがあるまま準備委員会をスタートすると、勝手に決められた中であるのかとそういうことになっちゃうんで、くれぐれも納得いく、文科省も言っている、検討委員会も書いてます、合意形成が必要であると。この合意形成に十分時間を割いて、複式が出来るのであれば一年間だけでも延ばして、市の職員、市費で職員を雇ってでも複式を解消して、私複式を悪いと思ってないんですけど、ダメというのであれば解消してその中で合意形成を十分はかった上で、反対意見があっても話すと思うんですよ。それをしてから前に進んで欲しいと思います。ぜひご検討ください。

参加者4：答申が出ていると思いますが、あと教育委員会の方で変えて素案を出しているようですが、検討委員会の答申と今回の流れの中で違う部分はどこでしょうか。また、それはどういうことで決めていったのでしょうか。

事務局：答申と違うところとしては、スクールバスのところがあります。答申では2キロとされています。30分以内で通えるとか、ありました。もちろんこれについては市内の未来の学校作りプロジェクトチームでも話をさせていただいて、我々としても2キロに持って行きたかったのですが、バスを何台走らせるのかというときに、2キロだとだいたい900人くらいが対象になってくるのですが、30台くらい走らせないといけない。30台走らせるとしたら1台1,000万という形になってくるので、なかなかそれは難しいかなと。それなら3キロであればどうなのかなというところで16台。公共交通の担当課にも入ってもらい、シーバスとかシータク、路線バスとかうまく組み合わせることができれば、もう少し台数減らすこともできたり、2キロに近づけることが出来るのではないかと思い、検討はしたのですが、今の段階では3キロという状況であります。

あとは小学校の統合時期です。答申では令和10年度をめどに統合に準備着手するのが望ましいとあります。その辺りについてはこちらの地域が関係してくると思います。後閑と山田のあたり、胸上と一緒になるころだと思えますが、令和9年度にしています。これはなぜかというと、後閑小学校の方が完全複式になっているという状況、それから山田の保護者の方から要望書をいただいております、早く進めて欲しいと、いった要望をいただいております。そういったところもあって、令和10年度を目指していきましようというところがありますが、山田地区の保護者の思いを含め、時期を早めているというところがあります。大きなところで言えばその2点があります。

参加者5：後閑小はいつから複式だったのですか。

事務局：完全複式学級になったのは令和3年度からですが、その前からいくつかの学年で複式はあったかと思いません。

参加者 5 : それまでは複式でも OK という考えでやっていたのですね。

参加者 6 : 鉾立小学校が胸上小学校に統合するのはもう目の前に来ていますが、ここで気になるのが通学路です。この図面を見ると鉾立小学校の一部がバス通学で一部は徒歩で通学するようになっていますが、上山坂から胸上側に越すときには峠を通ります。そこは問題あると思います。そこは自転車で中学生が行きます。それと道がせまいです。それを考えると、そこを歩いて小学生が胸上側に越していくのは問題あるかと思いますが、考えていただけたらどうかと思います。目の前にせまっていますから、よろしくお願いします。

事務局 : まず、来年からですが、7 年 8 年については全員、今回の再編とは違う動きの中で、子どもの安全安心を早く確保しなければいけないというところで鉾立の方は全員スクールバスで行くように考えています。令和 9 年以降は市内全体での計画なので、基準を統一し、玉野市の児童全体で考えていくという流れで 3 キロということで今回出させてもらっていますが、危険なところも考えた上で、どうするかというのは検討させてもらおうかと思っています。

参加者 6 : できれば鉾立側からは全ての児童をバス通学してもらいたいと思います。

参加者 7 : 孫が東兎中学校と鉾立小学校に通っています。

孫は今 4 年生なので、孫が 5 年 6 年の間はバスが走ってくださるということですが、うちの子が終わったから OK というわけではなく、答申の中で 2 キロとか 30 分とか話が出たと言われていましたが、子どもの足では 30 分で 2 キロも歩けません。

おとしの 9 月に番田から胸上小学校まで歩いてみました。当時、孫が 2 年生だったので、孫のランドセルの重さを量ったら 5 キロでした。5 キロの荷物を背負って二人で 1 時間かけて胸上小学校に着きました。歩く時間も、普段の子どもの登校時間に合わせて歩きました。なので、当然、中間峠のところでは中学生とすれ違いましたし、とても危険だと思いました。実際、普段から何キロも歩いています。足に自信のある私たちが、5 キロの荷物を背負って、1 時間かかりました。なので、たとえ 30 分くらいが妥当と言われても、子どもの足では 2 キロも歩けません。その辺りのところをもっと考えていただきたいと思います。今バス代のこととかいろいろ言われましたが、とても子どもを大切に思っているとは思えません。玉野市が、国が定めた 4 キロのところ 3 キロにするというのはとてもいいように言われますが、実際は子どものためではないように思います。子どものためと言われて安全な環境で、子どもの多様性のために統合の方がいいかと言われるますが、鉾立以外でも、安全な通学路が確保出来ない状態で、他の地区でも当然同じ問題があると思います。安全な通学路を確保した状態で統廃合を進めてもらいたいと思います。中には 3 キロくらい歩いた方が体力がついていいんだと言われる方もおられると思いますが、でも今は昔ではないんです。とても危険なことがいっぱいあるので、その辺りのところを考えて欲しいんです。どうしても私たちから見れば、行政の方や議員さんとかは、自分のこととしてとらえてないなという気がします。自分の子どもや孫がそういう危険なところを歩いて学校に行くと思ったら笑顔で送り出せるのでしょうか。そういうところを心配しております。

事務局 : もちろん、安全安心の配慮というのが一番だとわかっております。準備委員会の中でも、通学安全部会としてスクールバスの運行また通学路の交通安全に関すること、危険なところも含めて、どういったかたちで安全を確保して通学することができるのかというところは真剣に考えていきたいと思っています。

参加者 8 : 大人数より少人数の方がいいのか、少人数より大人数の方がいいのか、どんなメリットがあってどんなデメリットがあってというのは言うていただきました。じゃあ、玉野市全体の教育はどういうふうにしたらいいのかなど、二つあるより一つの方が多様性ですか。三つより一つの方が多様性ですか。4 つの学校を一つにしたらそれが多様性ですか。4 つの地域がそれぞれ自分たちを生かしていくのが多様性ですよね。多様性を子どもたちに教え

ようとしている教育の一つにまとめてしまうということですね。これはどこで合意形成したのでしょうか。山田小学校は早く統合して欲しいと言っていると言っていましたけども、実際山田の人に聞いてみたら知らないと言います。これ、合意形成できていますか。住民との合意形成ができて議論して高め合ってこまらなうというならわかりますけれども、合意形成ができるとは思えないんですけども。教育委員会でも、2キロと30分というのが検討委員会の意見として答申しましたが、いつのまにやら2キロでも無ければ30分でもない。それは誰と合意形成したんですかね。

私は申し訳ないけども、地域の特性を活かして個性を活かして、そしてその人たちが少人数だったら、みんな委員長になったり部活でリーダーになったりして、みんなリーダーになるんですね、少人数だと。大人数のところは関係ないやとなる。みんな責任者になってやっている。たとえば東兎中だったらみんな委員長になってみんな役員になって、みんな県大会に出れましたよ。全部勝って県大会に出れましたよ。たとえば今玉野市の人口が減っているということで、玉野市の野球部は一つしかありません。玉野市全体で一つですね。じゃあ部員として多いのは何小学校ですかと、東兎中学校と宇野中学校。6人と6人。荘内中よりも多いですね。

だから大人数が悪いとか少人数が悪いとか、人数が基準になるかとさしあたり疑問なんですね。質問なんですけど、教育の質を向上するために統廃合を進めるというお話でしたが、教育の質というのは何でしょうか。それでどのようにそれを確保するのでしょうか。教えてください。

事務局：今回、適正規模適性配置を考えると、教育の質の向上というこれを一つの目的としております。

では、教育の質の向上とはですが、今の学校教育というのが我々の世代が受けていた、先生からの一方的な授業を受けて、一つの答えをみんなで出していく、そういうものではなく、今、この激動の社会の中、生き抜くためにいろいろな力を身につけなければいけません。そういうなかで課題解決を自らの力の中で進めていく力、たとえば学校の授業であれば、答えを導くのではなく、どう出すか、どう考え方で答えを出していくかという、そういうことを授業や課題活動でやっています。その中で、一人ではなく複数、多様な仲間、多様な他者といろいろな考え方とかそういったものをしっかりお互いに出し合いながら、そういう考え方もあるのか、ということとそれぞれが多様な他者と関わる中で、しっかりと力を身につけていく、それがいま学校現場で進められている教育であって学びです。

だから、今言われている協働的な学びというのが今言ったようなところですね。そういうところを通して、思考力とか判断力、柔軟性とか自分の意見を出し合う、そういった様々な力を身につけていくための環境といったところで、ある程度の集団が必要といったところで、今出させてもらっている教育の質ということですね。

さらには、学習面や教科面ではなく、いろいろな人と関わる中でいろいろな人を認め合って、尊重し合って、さらには人間関係をしっかり築いていく、コミュニケーション能力を身につけていく、高めていく、そういったことも含めて教育の質と考えています。

社会を生き抜く人間力の育成、さらにはそのための学びということですね、これからの子どもたちが身につけなければいけない力をこれからの教育、令和の日本型学校教育でしっかり進めていく、それが目指しているところですね。ですから、行き着く先がやはりいろいろな人と関わるという、そういう環境が今の子どもたちに必要なことだと思います。

確かに、少人数ならみんなが活躍して、学校行事もそれぞれが活躍できるかもしれない。でも学校行事やいろいろな活動の中でいろんな役割があって、主役で表にたって、力を発揮する役の子もいれば、裏方で見えないところで支える役割や仕事、そういうことをするのも大切だということも学ぶ必要もあるかと思っています。

今言ったことで、いろいろな方向からの教育の質の向上ということを本市教育委員会では考えているという

ころです。

参加者 8 : たえば東児中の子だったら、運動会の時にマイクでアナウンサーのように喋ってくださいと言ったり、いろんな役があるわけです。そうするとみんなが必ずリーダーになれる。リーダーじゃないものも経験した方がいいとおっしゃいますが、じゃあそういう人たちはこういった社会に参加していくという能力が身につくんですかね。たとえば玉野市に会社がないから建ててやろうという人になりますかね。それは少人数の方が組織の責任者として責任を持たされるわけですから、その方がいい教育ができるのではないかな。と思います。

今度は多様性といった面から考えると、そういう学校もあっていいんです。大きな学校もあっていいし。いろいろな多様性のある学校が玉野市にあっていいし、私は多様性といったところではとてもすばらしいと思うんですけど。いずれそうなるとして、4校5校統合して、地元のお祭りできますか。教育委員会の方はいろいろなところに勉強に行き、地元の人と交流しますといいますが、実際問題時間としてできますか。時間がないんじゃないですか。5つの地域を回りきれますか。5校学校統合したら。お祭りいけますか。地域文化残せますか。それよりも多様性がたくさんあってお互い尊敬されて尊重されて認め合うってことが、多様性があるほうができるんじゃないですかね。

本当に玉野市の人はみんな統合したいと思っているんですか。市民が統合したくないですと言ったら、統合しないんですよ。教えてください。

事務局 : 合意形成といったところですが、全員の合意形成をとうとう思ったら、非常に難しいと思っています。もちろんいろいろな意見があってもいいかと思っていますし、期間を1年半という形で当初より伸ばしました。ただ、決めていけないといけない。ある程度は民主主義じゃないけれども、どこかで決めていかなければいけないと思っています。

参加者 9 : 質問と意見です。適正規模化の目的のハード面ところに書かれてある、計画的な改築・大規模改修など、施設の適切な維持管理、最新の機器の導入などが可能となると書いてありますが、今の通学に対する予算とか、そういったものを考えると、実現が可能なのかなと思うのですが、これについてはどうお考えでしょうか。

事務局 : たえばバスの話があったと思うのですが、かかるお金しか言ってませんが、そこには国からの補助が出ます。鉾立で言うと確かにバス1台1,000万かかりますが、それに対して運営経費というの、今までかかっていたので、そこに交付税などもあり一概にはいえませんが、1年間のランニング経費はそんなに変わらないと思っています。

ただ、課題としてあげていますが学校施設がもう古くなっておりまして。築40年とか50年とかたってきた建物が多くて、教育予算がしっかりあればいいんですが、子どもたちの命に関わるようなところの改修しかできないといったところが現状としてあります。これから、本当は長寿命化とか大規模改修をしていかないといけない、という時期がもうきてます。

そうなってくると1校あたり何十億というお金がかかってきます。それがかなりの学校で出てきます。長期的にいくと学校施設に係る費用というのは大きな費用がかかってきますので、そこは確かに学校の予算の方にまわして、それこそGIGAスクール構想じゃないですけど、みなさんタブレットやクロムブックもって勉強しておりますので、そういった世界に通用するような今の時代に合った勉強のほうに回していけたらと思っています。

教育予算を削ろうということではなくて、そういったことが出来るような環境にもっていきたいというところがあります。一番は子どもたちの教育環境というところでは一定規模がいるというのは先ほど話にもありましたが、施設面においても次の子どもたちが過ごしやすい環境を整備していきたい、学びやすい環境を作っていきたいというのがあります。

参加者 9：予算の取り方とかは私はわかりませんが、施設や教育にかかるお金それぞれ税金にはなりますから、われわれ納税者ですから、ぜひ適正な使い方と、地域のみなさんの気持ちもありますから、それも考えて、こういったお金の使い方をしているから大丈夫ですとか、そういった面も見せていただくと不安要素が解消されるんじゃないかと思いますのでお願いします。

2 点目ですが、計画作成から再編成準備委員会のページで、令和 7 年から 5 月の間に再編成準備委員会の設置と書いてありまして、その内容が次のページに書いてありますが、先ほどから通学、登下校に関する質問がたくさんありましたが、わたしも皆さんと同じように心配しています。それにあって、令和 7 年の 4 月から 5 月に準備委員会が設置されてスクールバスの運行や交通安全にかかわるところ、こういったものが実際令和 9 年に間に合うのかというところがあり、令和 9 年に間に合わせる準備がこれで足りるのかということが気になっていて、その辺りについて予算もあると思いますのでどうお考えでしょうか。

事務局：もちろん保護者の方にとっても地域の方にとっても、子どもの安全安心が一番のところだと思っています。再編準備委員会は玉野市で初めてのことで、平成 4 年には奥玉小学校が無くなって玉小学校になりましたけども、基本的にこういった形は今回初めてであります。全国的に 2 年はかかるといわれているので、こういった再編準備委員会は全国的にはありますので、そこは我々も勉強させてもらって、この期間でやるしかないと考えております。特に通学路の安全といったところは警察等とも含めてどういった対策ができるのか、安全にいける道を考えていきたいと思っています。それを含めてスクールバスということでもあると思います。

参加者 9：間に合うと思っていいですか。

事務局：間に合わせるしか無いと思っています。

参加者 9：今ここに集まっている地域のみなさんは統合に関してもですが、通学の安全に関しても心配しておりますので、ぜひ子ども安全安心を守ってもらえたらと思いますし、私は人数の規模とかそういったものは前向きに検討はしていますので、ぜひ安全は守ってもらえたらと思います。

参加者 3：私のもう一つの心配は、統合によって一クラスの人数が増えるということです。今 10 人の子どもが 20 数人のクラスに入る。突然ですよ。今 35 人が 34 人になるとかではなくて、今 10 人のクラスが 30 人になる。4 つの学校が一緒になると 34 人のクラスもできるように表に書いてありました。クラスの人数が増えることによって、協働的な学びが出来るのかもしれませんが、個別指導、個の学びものことがあると思います。勉強がわからなくなる、学校に行きづらくなる、いじめられてしまう、などなど人数が増えると目が行き届きにくくなって、手間暇かけてもらえなくなるんじゃないかがすごく心配です。一人一人の子どもを大切にしたいキメの細やかな指導や支援が玉野の教育の良さだと思います。今までも昔からずっとそうでした。

統廃合によって小規模校が、複式のある学校がちょっと大きくなってクラスの人数が増えることになって、協働的な学びは出来るかもしれませんが一人一人を大切にする良さが失われてはいけないと思います。その辺りをしっかり心にとめて統廃合をするのであればしていただきたいと思います。

たとえば、市費で教職員を一人増やすとか、支援員さんを一人増やすとか、そういうことが学校を集約する中で可能であれば一人でも二人でも教員を増やして、子どもたちを大切に見守って欲しいなとそうのように思います。

統合までの準備期間が 2 年と 3 年ありますが、やっぱり焦ってするのではなくて、時間をかけて 3 年かかると前議会で言われていましたけど、聞いた気がするので、やはり 3 年かけてほしいと思います。

それと、統合の時期が重なっているのがとても心配です。アドバイスする教育委員会に、同時であれば無理がかかると思います。通常業務がおろそかになつたりしないでしょうか。体を壊す職員がでてこないでしょうか。そ

の辺り配慮の上で、ちょっと時期をずらせば全部うまく上手に余裕を持っていい統廃合が出来ると思います。ご検討ください。

参加者 2：東児学区というのは昔東児町が玉野市に合併したところ。胸上鉾立も伝統あるところ。それが今、わたし 60 歳ですけど、50 年たっても全然変わらない状況です。あげくにはスーパーもなくなって、限界集落です。海に面している割には。せつかく市長さん来られているので言わせてください。

小豆島が鉾立から見えます。あそこは観光地になっております。玉野も宇野はあるんですけど、全体としては盛り上がりがありません。県北でも子どもが増えているところがあって、こないだ前首相が来られていましたし、ああいう対策を特にこういう伝統あるところでやっていただけませんか。学区の統合はその上で、まず子どもを増やさないといけなと思います。子どもか人を。小学校もそうですけど、保育園や幼稚園も統合してしまって、鉾立胸上が人が増える要因がないんです。店もない。どうにかしてもらえませんか。玉野市の中心部から外れてますけど、重要なところなんです。ここは。児島半島の一角で、風光明媚で、人は行事をしたら来んです。だから、今まで開発してない地区、学区なんでもっと力を入れてもらえませんか。それを最後お願いして帰ります。

市長：本当にこの鉾立地区は、私も認識はなくて、市長になる前はたまに通るくらいですが、市長になってからは度々お邪魔したりとか、鉾立小学校の件もあたりだったので、何度もお邪魔して、みなさんがたも熱い思いを持っていてされている。東児町から合併して以降、何もしてくれん、何も出来とらんというのもずっと聞いてきています。

そういう意味で、この地域は素晴らしい自然もあり、温かい人たちとか、吉原海岸とか見るべきところもあるのかなと、最高の景色だなと思っていますし、潮の引く景色とか、鉾立小の子どもたちはそこへ行って遊んだり出来るわけですね。恵まれた環境だと思っていますし、木造校舎も本当に素晴らしい。あれをなんとか残して保存したいとこだわってみたいけれども、なかなかご理解を得られなくて、予算も通らなかつたということで今に至るんですが、ただこの地域が素晴らしいことについては変わりませんし、私も県に長く勤めていて、県からいろいろなところを見てきています。

そのなかでこの地域は独自性もあるし歴史もあるし、昔備前醤油の醤油倉がたくさんあって、栄えたという時期もあった。そういう歴史もきちと掘り起こして再発見をして、ただそれだけでは観光資源として売っていけないので、もう 1 度再編集するとか、それをうまくアレンジして外に向けてアピールしていく、手間と時間がかかりますけど、観光地としての魅力は十分あると思っています。

ですから、これからそこをどう取り上げてやっていくかっていうのは大きな課題だと思っていますし、そこは力を入れてやっていきたいと思っています。たちまち昨年度「玉野人」という小冊子を作っていて、それには今まで玉野で取り上げていなかったような、たとえば常山だとか塩作りの歴史だとか、この地域も取り上げています。番田の立石だとか、とりあげて少しですがアピールしていますし、そういった流れを作っていきたいです。

さらには、これからですが、都市計画のマスタープランですが今年度から見直しをすると、いろいろな規制がかかって開発が出来ないとか家が建たないとかというのがあるんですけども、そこもなんとかならないかという思いは持っていて、都市計画課とも今日話をしたのですが、難しい面はあるのですが、これから市民の方、協議会のみなさんの意見を聞きながらより良いまちづくり、人口は減少していてもここに希望を持って住み続けられるようなそんなまちづくりをしていかなければいけないというふうに思っています。